

地域組織育成委員会

令和6年度実施報告と来年度の方針



1 令和6年度当初の現状・課題

令和5年度は岡山、福島でユニバーサルな大会を開き、少数ではあるが新たに選手や審判員を増員することができたが、地域組織(地域連盟)が発足するまでには至っていない。

様々な地域で日常的な練習会や記録会ができるように、人員(選手、コーチ、審判員)を増やすことが大きな課題。

現状・課題を踏まえた目的

「仲間を増やそうキャラバン」を実施



各地域で活躍する仲間(選手、コーチ、審判員)を増員し、
地域を盛り上げていくベース作り(組織化)に力を入れたい。
また、未開拓地域の開拓

- ▶拠点候補地有(岡山、愛知) → 仲間増＋組織化
- ▶拠点候補地無(山口) → 仲間増＋地元との繋がり強化

3実施内容(取り組んだ事業)



審判講習会(岡山)



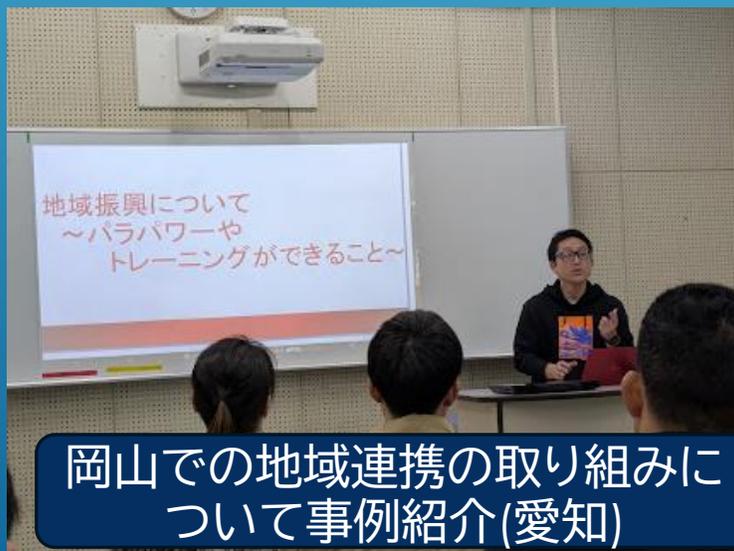
パラ・パワーの魅力について(岡山)



地域の方々とワークショップ(山口)



パラ・パワーの練習方法の体験を他競技(柔道)選手に。トレーニング相談会(愛知)



岡山での地域連携の取り組みについて事例紹介(愛知)



VBTトレーニングの紹介(山口)

4成果を中心とした事業報告

- ・新たに選手、コーチ候補、審判候補を増やすことができた。
- ・パラパワーの練習方法を取り入れる健常者選手が増えた。
- ・岡山県では岡山県パラ・パワーリフティング連盟が発足。
- ・愛知県では、クラブが結成し、自分達で運営していこうという機運が出てきた。
- ・山口県では、ワークショップを開き、地域課題について共有し来年度どうすれば良いのかを話し合うことができた。拠点候補となりそうな方と繋がりを持つことができた。山口県パラスポーツ協会との繋がりを強めることもできた。

→拠点候補がない地域での普及活動の重要性を感じた。

5 新規開拓地域を増やすことの重要性

地域でのスポーツ活動拡充のイメージ

地域のパラスポーツ振興は、まず地域の実情を把握し、必要な活動・つくりたい活動のイメージをもった計画的なアプローチが求められます。

例えば、未普及の地域で活動の場をつくる初期段階では、体験会やイベントを通して地域の実態を把握し(ステップ1)、その後、地域とともに定期的な活動(スポーツ教室など)を通して継続を図る活動を模索(ステップ2)。さらに、スポーツの日常化に向けた地域で自立したクラブ・サークル化(ステップ3)が一つの道筋といえるでしょう。3年後、5年後の地域活動のイメージをもって取り組むことも振興のポイントとなります。

スポーツ活動の場をつくり・育てる



○JPSAや他競技団体も新規開拓地域を増やすことに力を入れている。

○新規開拓をする上でのポイント

- ・ 都道府県パラスポ協会との繋がり強化
- ・ 地域でのキーマン発掘
- ・ Jスター等の発掘事業との連携

5 継続や発展に向けた今後の課題、展開

☆ 筋肉でつながろうパラパワー研修・体験会を

関西、中国、四国、九州で実施(助成が取れば)



九州 (新規開拓)	JPSAの佐藤さんと開催地調整中。 熊本が候補	熊本県パラスポ協会?や地元関係団体との連携強化
四国 (新規開拓)	JPSAの佐藤さんと開催地調整中。 愛媛が候補(R7Jスター開催地)	唯一の選手、コーチ無地域。愛媛はパラスポ協会と指導者協議会が意欲的に活動。県庁のパワーリフター。
大阪 (新規開拓)	長居障がい者スポーツセンター	長居の職員である井上さんは京都の練習会にも来てくれている。大阪で選手、コーチ候補を増やして、京都の練習会に参加する選手を増やしていきたい。
山口 (組織化)	山口県パラスポーツ協会 パワーハウス山口(R7Jスター開催地)	R7年度はパラスポ協会やパワーハウス山口を中心にクラブ化できるようにスタートアップフォロー。
鳥取 (組織化)	鳥取県パラスポーツ協会 鳥取県パラパワーリフティングクラブ	新人発掘事業を行っている県。発掘事業と連携。サポートスタッフも充実。連盟の方針も理解。